

## 社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣 良次

2023. 7  
No.359

### 社長塾 再スタート

コロナ禍の中で、中止をよぎなくされた社長塾も再開することができました。合計8クラスで延べ149名でのスタートです。

イナテックの企業理念の原点は、『稲盛哲学』をベースしております。特に「人間として正しい考え方」を常に追求・探求することが大切なことです。

心の中に何もしないとすぐに雑草が生えてきます。だから常に雑草を抜くこと。そして常に心に栄養を与えることによって、素晴らしい花は開花するのです。

「雑草を抜き、常に心に栄養を与える」とはどういうことか。それは、常に「良書」に触れ、そして自分の頭で考え「反省」をし、

「人間として正しい考え方」で行動を起こすとだと解釈しています。

稲盛さんは次のように分かり易く表現してみえます。

#### 人間としての原理・原則(人に言う場合)

- 一、人のものを盗まない
- 二、嘘をつかない
- 三、人を騙さない
- 四、約束を守る
- 五、弱い者いじめをしない

#### 人間として正しいかどうか(自分自身に対して言う時)

- 一、嘘をついてはいけない
- 二、人に迷惑をかけてはいけない
- 三、正直であれ
- 四、欲張ってはならない
- 五、自分のことばかり考えてはならない

以上のように非常にシンプルで分かり易く表現してみえます。我々は常にこれを身近に置き、振り返るようして下さい。

白洲次郎

#### 【シンプル(原理・原則)のない日本】より

イナテックの顧問である「かがやきグループ」様の経営者勉強会で、白洲次郎氏の実娘さんのお話を聞くことができました。その時に説明された白洲次郎氏の考え方を紹介いたします。

白洲次郎

#### シンプル(原理・原則)

- 一、言い分けをしない
  - 二、筋を通して生きる
  - 三、自分がブレない、軸がブレない
  - 四、公私混同しない
- 他、働いてくれる人に親切にしろ  
ゴルフ場のレストランやキャディさんに  
威張るな

## 白洲次郎のダンディーとは

- 一、言い分けを言わない
- 二、嘘を言わない
- 三、ユーモアであれ
- 四、弱者をいじめない
- 五、そこそこかっこいい

どこか稲盛哲学と同感できるところがあるように思います。

稲盛氏は白洲次郎氏と同じく「原理・原則」を大切にしている。稲盛氏は四書五経を始めとする良書を読み実行してみえる。

白洲次郎氏は、イギリス留学の経験からジエントルマン精神を学んでみえた。そんな共通点があるのではないかと私は考えています。

## 白洲次郎(1902 - 1985)

1902(明治35)年、兵庫県芦屋の実業家の次男として生まれる。神戸一中卒業後、イギリス・ケンブリッジ大学に留学。帰国後は英字新聞記者を経て商社に勤務するが、1943(昭和18)年、日本の敗戦を見越して鶴川村(現・東京都町田市)で百姓となる。1945年、吉田茂に請われて終戦連絡中央事務局参与となり、日本国憲法成立などに関与。その後、貿易庁長官に就任、通商産業省を誕生させる。以後、東北電力会長などを務め、1985年逝去。

## 『稲垣良次メモ』より(1996年度版)

わが家の家訓 福井正憲(株)福寿園社長  
「つもり十訓」

- 一、多いつもりで 少ないが分別
- 二、あるつもりで ないのが財産
- 三、ないつもりで あるのが借金
- 四、深いつもりで 浅いのが知恵
- 五、浅いつもりで 深いのが欲
- 六、高いつもりで 低いが見識
- 七、低いつもりで 高いが腰
- 八、儲けるつもりで 損するのが商売
- 九、飾るつもりで 剥げるのが嘘
- 十、隠すつもりで 顕れるのが悪事

1996年に当時船井総研で学んだ一節です。

すばらしく考えられたものは、いつの時代でも色あせないものだということ。

稲盛和夫氏も白洲次郎氏も、原理・原則を大切にし、ブレない心身を鍛えてみえた。福寿園の社長も自分の視察や世の中を良く見てみえる。この仮説と検証を繰り返しても十訓」が完成し、家訓として残してみえる先輩諸氏を見習い、一生実行せねばならぬと学ばせていただきました。

イナテックも常にブレない自分に帰るよう『人間として正しい考え方』の探求をして参ります。

社長塾再スタートに際し、思う次第です。

### 茶根譚後集

九〇

斗室中、萬慮都捐、説甚畫棟飛雲、珠簾捲雨。三杯後、一真自得、唯知素琴橫月、短笛吟風。

斗室トシツの中、万慮マンリョ都ト捐ケン、説セツ甚シ畫エ棟トウ飛トビ雲ウン、珠簾シュレン捲マク雨アメ。三杯サンハイ後ノチ、一真イチシン自得ジツトク、唯知タカシ素琴ソコ橫ヨコ月ツキ、短笛タンペク吟ウタ風カゼ。三杯サンハイのノチ、一真イチシン自得ジツトクすれば、唯タカシだ、素琴ソコを月ツキに横ヨコたえ、短笛タンペクを風カゼに吟ウタするを知るのみ。



## 社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣 良次

2023. 8  
No.360

### 『千に一つの奇跡をつかめ!』千本倅生 著

良い本を見つけました。我々が師と仰ぐ稲盛和夫氏を動かした“千本氏”の話です。

京セラの稲盛さんを中心に第二電電からKDDIの創業を成し遂げた人達の実話です。今回、稲盛氏から学ばれた事を紹介させていただきます。稲盛氏から学ばれた事を紹介させていただきます。稲盛氏から学ばれた事を紹介させていただきます。

「思考に気をつけなさい、いつか言葉になるから。言葉に気をつけなさい、いつか行動になるから。行動に気をつけなさい、いつか習慣になるから。習慣に気をつけな

さい、いつか性格になるから。性格に気をつけなさい、いつか運命になるから。

「聖女マザー・テレサ」(千本、2023)

我々も、ついネガティブになりマイナスな言葉を発してしまうことがあります。それを

“失言”と言つて撤回される方もいますが、その人の心のどこかにそのような考え方があ

るから口から出てしまうものと考えます。火の気のないところに煙は立ちません。

マザー・テレサの言うように、常に、  
“言葉に気をつける”そうすると行動が変わつて“運”がついてくる。まさにその通りと考えます。

### 最初に水に飛び込む

「ファーストペンギン」になれるか

エサをとり、海に飛び込む時と同じで、群れは互いにけん制するような仕草を見せるだけで、最初の一羽が飛び込むまで行動を起こさな

逆にいえば、シャチャやヒョウアザラシといった天敵がいるかもしれない未知の海に真っ先に飛び込む一羽、すなわち

“ファーストペンギン”の勇氣、果敢なチャレンジ精神、そのベンチャースピリットは、称えられてしかるべきものなのです。  
(千本、2023)

イナテックの社長塾でよく話すのは、例えば熱中症で倒れた人や仲間がいたとします。

その時、一歩前へ出て応急処置を即するか、一歩下がって皆の様子を見てしまうのか、答えは一つ。率先して、まず一歩踏み出して行動すること。その行為が仲間の生命を助け救うことになるからです。イナテック社員は常にイメージトレーニングをすることによって、行動することが出来ると信じています。

西洋のことわざに「卵を割らないとオムレツはつくれない」というのがありますが、私はその卵を最初に割ったおっちゃんよのピエロであると同時に、勇氣あるフ

アーストペンギンであったのかもしれない  
せん。(千本、2023)

### 「迷ったら進む」を信条に人生を歩む

現状維持は後退である、と言うビジネス上の教訓がありますが、もしそうなら、その現状を保つためだけに少しの前進が必要になってきます。

常に少し前へ進んでこそ、現状維持も可能になる。すなわち、迷ったら(迷わなくても)一歩でも前へ進まない、その場にとどまることすらできないのです。

(千本、2023)

イナテックもややもすると、今のままでいい。『変えるのは嫌だ』『変えるのは面倒くさい』等々聞かえてくることがあります。この千本氏の言うように「迷ったり・迷わなくとも一歩前進」これに尽きると思います。行動する前から『ああでもない、こうでもない』

い』とやらない・やれない事ばかり言っている人がいます。

まずはやってみて、失敗しても良いではないですか。『失敗も前進』の一つなのです。何もしないのは『ゼロ』。失敗はイチなのです。さあイナテック社員諸君！ 行動しよう。

### 万策尽きたところから

#### 「ワンモア・トライ」せよ

「やってみるのは学ぶことにまきっている」(スイスの哲学者ヒルティの言葉)。動けば、私たちはそれだけ答えに近づくのです。

まして、それが生きたビジネスの世界のことであれば、机の前で理屈をこねまわしている、いい答えは見つかりません。デスクまわりで思索の頭をひねるヒマがあったら、現場へ出て自分の目で見る、自分の足で歩く。そんな行動力が必要になってくるのです。答えは現場にある。最適解は行動から導かれる。(千本、2023)

イナテックでよくあるのは、例えば不良対策などをしていることです。なぜかと言うと『真因が明確でない』現象のみで対策と銘打っているのです。

「現場を見たか」と言えば、現場を見ていない。「機械をバラして観察したか」と言えば、やっていない。「どれくらい汚れて作動不良を起しているのだ」と聞けば、分かりません。これらすべて現場を「観」ていない。ただ「見」ているだけなのです。

今一度、『答えは現場にある。最適解は行動から』を教訓に実行しよう。

### 「これはいける」という直感が

#### 的中するのはなぜなのか

直感やひらめきについては、いろいろな意見があります。単なる偶然で虫の知らせのような非論理的なものにすぎないという人もいれば、知識や経験の蓄積のなかから瞬間的にすくいとられる英知の断片のようなものではないかという人もいます。あるいは、それはまさに天からの

啓示Ⅱ天啓であり、だからこそ直感とい  
うのは物事の本質に最短距離、最短時間で  
到達できるのだという人もいます。

個人的には、それは人間の「よい心、よ  
い行い」に反応して、天が送ってくれるシ  
グナルのようなものだと考えています。

たとえば、世のため、人のためにという  
利他の心、社会貢献のために大きな目標を  
果たそうとする高い志。そうしたよい心や  
正しい行いのありように「大きな意思」が  
反応して、私たちに進むべき方向や問題の  
解決策などをちらりと垣間見せてくれる。  
瞬間的ではあっても明示してくれる。

それが直感であり、ひらめきであるので  
はないかと思うのです。(千本、2023)

私が思うに、直感は大切にして欲しい。但  
し単なる思い付きではなく、千本氏が言っ  
てみえる「知識や経験の蓄積のなから瞬間的  
にすくいとられる英知の断片」ではないかと  
思います。何も知識のない人は、せいぜい沢山  
の情報を持って叩き込み訓練の必要があると  
思います。

その上での直感・五感(目・耳・鼻・舌・触)  
を大切にするとともに直感・五感を常に磨い  
ておく必要がある。つまり自分で『仮説を立て  
て検証する』癖付けをすることによって磨か  
れるものなのです。

それが「最短距離・最短時間で到達」でき  
ることにつながるのだと思います。

今イナテックにおける両利き経営にもスピ  
ードが必要条件だと考えております。

もつともつとスピードを上げるためにも自  
分の頭で考え行動を起こす。『ファーストペン  
ギン』になることと同義語です。

我々の今描いている構想は間違っていない  
ん。自身を持って一歩前へ行動しようではあ  
りませんか。

#### 参考文献

千本倅生(2023)『千に一つの奇跡をつかめ!』

サンマーク出版

#### 菜根譚後集 九一

萬籟寂寥中、忽聞一鳥弄聲、便喚起許多幽趣。萬卉摧剝後、忽見一枝擢秀、便觸動無限生機。可  
見、性天未常枯槁、機神最宜觸發。

一、<sup>ばんらい、さうりやう</sup>萬籟寂寥の中、<sup>たふまニ</sup>忽ち一鳥の弄聲を聞けば、<sup>すなわ</sup>便ち許多の幽趣を喚び起す。万卉摧剝の後、<sup>ばんしゅう</sup>忽ち  
一枝の擢秀を見れば、<sup>たふまニ</sup>便ち無限の生機を触れ動かす。見るべし、<sup>せうてん</sup>性天未だ常には枯槁せず、<sup>きしん</sup>機神  
最も宜しく觸発すべきを。